

五郎丸に影響与えた指導者の部下育成術(第5回)

「ストーリーに君らしさはあるか」が目標設定の鍵

2016.04.20

ラグビーワールドカップの大活躍で話題となった五郎丸歩選手。選手として基礎を固めた早稲田大学ラグビー蹴球部時代の監督が中竹竜二氏だ。五郎丸選手は、今でも影響を受けた指導者として中竹氏の名前を挙げる。中竹氏に結果を出す部下への指導法を学ぼう。

今回の「部下に気づきを与える」言葉は、目標設定の際に役立つものだ。前回まで、部下に能力を発揮してもらう方法について説明してきたが、それと同時に目標設定も適切に行う必要がある。今回は目標設定の不可欠な「ストーリー」の考え方を紹介する。

部下が目標を達成できない。そのとき、部下に問題があると判断する前に、目標設定の仕方に問題はないか、自らを疑って見たほうがいい。実は、本当に大事なことを話し合っていないのではないか、と。

早稲田の監督時代、毎年1年生から4年生まで、全部員と個人面談をした。そこで行うのは、前回まで説明した「スタイル」の確立と、その年の目標設定。目標設定に私が使っていたのが、「VSSマネジメント」という手法である。VSSマネジメントとは、「ビジョン(Vision)」「ストーリー(Story)」「シナリオ(Scenario)」の頭文字を取ったものだ。

ビジョンを描き、それに向かう道のり(ストーリー)を具体的にイメージする。そして、そこで起こり得る失敗や逆境に立ち向かうために、どんなセリフや行動を仕込むかを考えるのがシナリオである。少なくともビジョン(目標)と、そこにたどり着くストーリー(プロセス)の話し合いは必須である。

カメにはカメ、ウサギにはウサギの戦い方がある… 続きを読む